

佐渡米通信

こめへる

2025年 8 月号

発行日:2025年8月

発行：佐渡農業協同組合 担当：総務部企画総務課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snw.ocn.ne.jp

島外生産者がJA佐渡管内視察 -産地間での情報交流-

7月上旬に新潟県内のJAから職員、米生産者計15名が視察に来られました。JA佐渡における朱鷺と暮らす郷認証米の取り組みをはじめ、佐渡米の出荷基準について説明させて頂きました。圃場視察では、基盤整備工事から水源や水路の状況を確認されたり、作付け品種の動向に関する情報交換が行われました。視察に来られた生産者の着目点や質問内容は、課題解決の糸口を掴もうとする真実さが伺えました。生産地の数だけそれぞれの課題を抱えており、対策を講じて安定供給に向けた努力が続けられています。

お米の価格推移が連日ニュースで報道されていますが、購入の判断基準となる情報が消費者には十分に伝わっていないという声もあります。佐渡米の生態系へ配慮した栽培方法は生活協同組合や文化団体などから支持の声を頂いております。この取り組みへの支持の輪が広がるよう、今後も分かりやすい情報の発信に努めて参ります。



JA佐渡職員が圃場で説明する様子

佐渡の米農家さんにインタビュー

金井地区平清水集落の関根彬さん、亜沙果さんご夫妻にインタビューさせて頂きました。関根さんは朱鷺と暮らす郷認証米と無農薬無化学肥料コシヒカリ・酒米、農薬の他に有機肥料や堆肥も施用しない自然栽培の酒米を作っています。亜沙果さんのパン作りの趣味から小麦も作っており島内のレストランやお菓子屋にも出荷しているそうです。

関根さんご夫妻は島外から佐渡に移住し、約10年前から専業農家をされています。彬さんが初めて佐渡を訪れたのは、当時ライフワークであった世界を旅するうちに消費する生活から生産する暮らしに興味を持つようになり、友人の紹介で農家の手伝いをしたことがきっかけでした。農作業の帰りに海岸線を原付バイクで走っていたときの夕日の美しさと体全体に血が巡っていくような心地良い疲れに感動し、亜沙果さんと何度か一緒に訪れているうちに佐渡での暮らしに移っていったそうです。互いに農業の経験がなく、その頃はまだ怖いもの知らずで興味をもったことに挑戦できたと笑顔でお話されていました。体を動かすことで得られる充実感、自然の美しさ、人とのつながりがお二人にとって新鮮で、もっと多くの人に農業の良さを知ってほしいと思っているそうです。農業を始められてからいろいろな失敗も経験されているそうですが、この10年間一度も後悔したことがないと話されていたことがとても印象に残りました。こめーるという言葉はスペイン語で「食べる」という意味だと教えて頂き、「米を食べながら応援する」という意味がかかっていると解釈されており大変勉強させて頂きました。

JA佐渡では、農業体験や就農支援の取り組みを通してより多くの方に農業に関わるきっかけを提供できるよう引き続き取り組んで参ります。



田植え後にはほぼ毎日除草作業をしていると説明してくれた関根夫妻



小麦の収穫



関根農園オリジナル商品

金井地区



平清水集落



Instagram
@sekinefarm_sado

▲関根農園
Instagram

温湯消毒 春耕転 苗づくり 田植え 水管理 中干し 穂肥 稲刈り 秋耕転 ふゆみずたんぼ



facebook



instagram



JASADOTANBO